

図形詩的表現に着目した音読指導の検討

A Study of Read Aloud Instruction for Calligrammes

藤野 良孝

Yoshitaka FUJINO

要 旨

本研究では、図形詩的表現を用いて、感覚的な内容の理解を促すための音読指導(主な対象は小学生。)の形態と過程について検討した。図形詩的表現の音読形態の検討では、藤野(2022)の音読の解説を参考にしながら、①「書体のデザインを感じて読む」、②「色を感じて読む」、③「身体を動かしながら読む」の3つを考案した。指導過程の検討では、「音読とは何か」、「どんな利点を有しているのか」を学習者に理解させ、「作者・題目」を紹介した後、標準的な音読指導の形態と先に考案した①～③を組み合わせた形態及び学習者自らが形態を選ぶ活動を考案した。最後に、音読体験の価値の振り返りを推奨した。

1.1. はじめに

音読は、主に小学校の国語科において活用される重要な学習方法である。音読とは、「声を出して文章を読むこと」と解説されている(デジタル大辞泉)。昨今、音読を行うことが脳科学的な観点からも有効であることが述べられている(川島 2002, 2004, 川島・安達 2004, 川島・川島 2015, 加藤 2021)。特に子どもの脳の力を育てる音読は、小学校の国語の授業では、どのように指導されているのだろうか。小学校学習指導要領解説国語編(2017)では、表 1 と併せて以下の様に記載されている。

【第 1, 2 学年の音読の指導事項】「音読には、自分が理解しているかどうかを確かめる働きや自分が理解したことを表出する働きなどがある。このため、声に出して読むことは、響きやリズムを感じながら言葉のもつ意味を捉えることに役立つ。また、音読により自分が理解したことを表出することは、他の児童の理解を助けることにもつながる。」と述べている。

【第 3, 4 学年の音読の指導事項】「第1学年及び第2学年のクを受けて、文章の構成や内容を意識して音読することを示している。第3学年及び第4学年では、一文一文などの表現だけでなく、文章全体を意識して音読することを求めている。」と述べている。

【第 5, 6 学年の音読の指導事項】「第5学年及び第6学年においては、文章の構成や内容を理解して音声化することに加え、自分の思いや考えが聞き手に伝わるように音読や朗読をすることが求められる。」と述べている。

表 1 音読・朗読

第 1 学年及び第 2 学年	第 3 学年及び第 4 学年	第 5 学年及び第 6 学年
ク 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読すること。	ク 文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読すること。	ケ 文章を音読したり朗読したりすること。

このことから使用する教材にあわせて、音読の形態を変えていくことが学習を楽しむ上でも、学習効果を高める上でも必要だと考えられる。

だが芸術的要素が含まれる図形詩的表現の音読において、既存の音読指導の形態を変えるだけでは、より作品の楽しさに触れる、理解を促すと言った面で不十分であり、新たな形態的なアプローチが必要だと考えられる。そこで、藤野(2022)の音読の解説を参考に、図形詩的表現の音読指導の形態を3つ考案する。なお本稿で取り扱う図形詩的表現は、藤野(2022)を引用する。

3.1. 書体のデザインを感じて読む

まず「書体のデザインを感じて読む」は、学習者たちが文字のフォントやレイアウトに注目して、そこから感じた印象に基づき声をだす音読である。

例えば、書き文字として標準的に使用される明朝体を見て音読する場合は、声が平板になりがちだが、**図1**のような「るるるるるんぶ(上段の)」～「つるんぶつるん(下段)」の書体とデザインを感じることで、メッセージ性の強い言葉に躍動感が生れ、自然と声に抑揚をつけて読むことができるようになると考えられる。特に書体のサイズ感、線の太さや細さ、フォルムなどの視覚情報から、個々が感覚的に感じたニュアンスによって、音声の強弱や高低、長短を変えながら読むことができるようになると思われる。

3.2. 色を感じて読む

次に「色を感じて読む」は、書かれた文字の色に注目して、そこから感じた印象に基づき声をだす音読である。

図1の「るるるるるんぶ(上段の)」～「つるんぶつるん(下段)」は、それぞれ水色で着色されており、その水辺を彷彿させる色から沢山の河童が夜の沼の中で明るく、楽しく歌っている様子がイメージされる。

また同一の水色でも、言葉によって色の

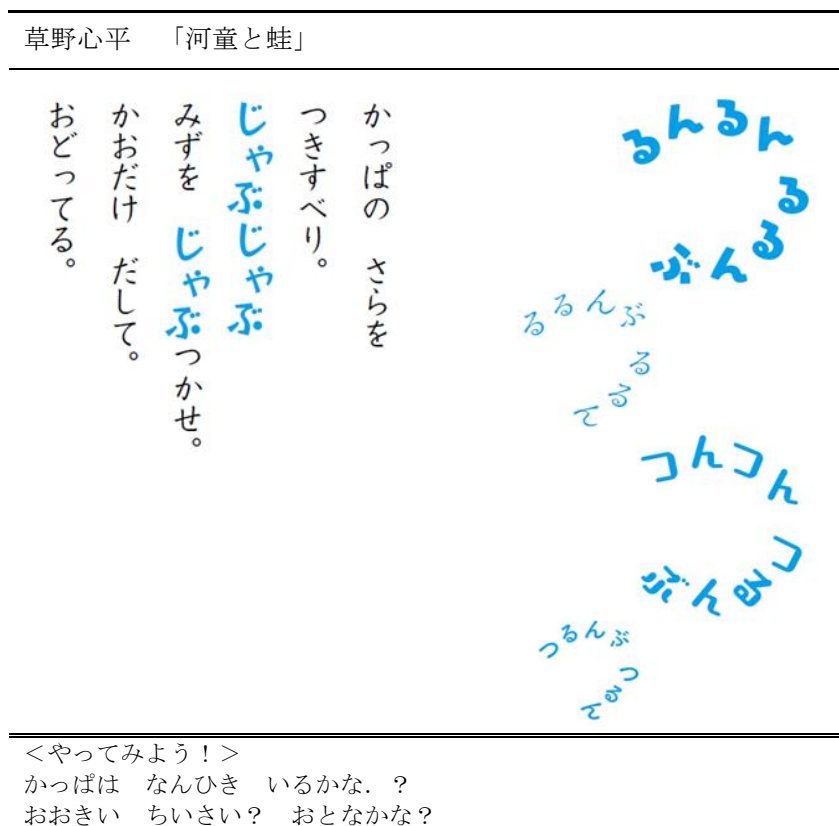


図1 図形詩的表現のイメージ (藤野 2022)

濃度を変えて示すことで、遠近感(近くにいる河童, 遠くにいる河童)を醸し出し、読み手は音量を変えながら音読することができると考えられる。

3.3. 身体を動かしながら読む

最後に「身体を動かしながら読む」は、運動(ここでは踊る)に伴って声をだす音読である。言葉と運動を一体化させて読むことにより、河童たちが明るい気持ちで歌ったり、楽しそうに踊っているシーンが鮮明に浮かび上がることが期待される。より河童の心の状態が理解できるようになると同時に、登場人物になったつもりで感情移入をしやすくすることができると考えられる。

4. 音読指導の過程の検討

ここでは、図形詩的表現の音読指導の過程について検討する。筆者は、幼児や小学生を対象にした絵本の読み聞かせの経験や大人を対象にした音読セミナーで実践的に指導した経験がある。特に図形詩的表現に特化した音読セミナーの実践では、参加者から「楽しい」、「面白い」などの肯定的な感想を多数得ている。

ここでは、先の中で上手くいった指導の過程を見直し、整理し、検討した案を表4に示す。

具体的には、「初め」で、「音読とは何か」、「どんな利点があるのか」を参加者に理解させた上で実施する。これを初めに導入することで、音読することの意義が伝わり、学習者の主体的な音読活動が期待される。

「中」では、「作者・題目」を紹介した後、表3で示した音読指導の形態(標準的な音読)の中から、一斉読み、一文読み、段落読みなど1つ選んで、学習者に音読してもらう。この際、多くの学習者が感情移入もなく、抑揚のないフラットな声で読

表4 音読指導の過程

過程	学習内容
初め	音読とは何かを説明する。 どんな利点を有しているのかを理解させる。
中	作品(著者, 題目)の紹介 [標準的な音読] 表3から幾つか読みを選定して行う。 (一斉読み, 追いかけて読み, 一文読みなど) [図形詩的表現の理解を促す音読] ・書体のデザインを感じて読む。 ・色を感じて読む。 ・身体を動かしながら読む。 [個別最適化な音読] ・学習者が興味をもった読みを選ぶ。 ・学習者が自分に1番合うと思った読みを選ぶ。 ・個々人が選んだ読み方をグループ内で共有する。
終わり	[音読体験の価値を確認] 作品の理解が深まったか。 声に変化が生まれたか。 音読は楽しかったか。

む傾向が予想されるが、その次の「図形詩的表現の理解を促す音読」を導入することで、読む声の強弱を変えたり、高低を変えたり、速さを変えたりするなどの違いが生まれてくると考えられる。また学習者の人数によっては、時間的な制約も生じると思うが、その際は3形態ごとに音読者を無作為に数名指名し、3形態の違いを体験させることを取り入れたい。

「個別最適化な音読」では、学習者が音読して1番ぴったりきた形態を選ぶとよいと考える。その方が、自由度が高く、個性も育まれることが期待されるからである。何より自分がぴったりきた形態で声をだすことで、能動的かつ楽しく取り組むことが予見される。

最後の「終わり」では、様々な音読を体験したことによる「作品の理解が深まった」、「声に変化が見られた」、「楽しかった」などの価値を確認することを推奨したい。これによって、学習者は図形詩的表現における音読の楽しさに気づくことができ、音読の取り組みが一層前向きなものになると考えられる。

5. まとめ

本研究では、図形詩的表現の音読指導の形態とその過程について検討することを目的とした。その結果を、以下に示す。

- ① 図形詩的表現の音読形態は藤野(2022)の音読の解説を参考に、「書体のデザインを感じて読む」、「色を感じて読む」、「身体を動かしながら読む」の3つを考案した。
- ② 音読指導の過程は、「初め」、「中」、「終わり」で構成した。「初め」では、「音読とは何か」、「どんな利点を有しているのか」を学習者に理解させ、次の「中」で「作者・題目」を紹介し、文部科学省が紹介している音読指導の形態と①を組み合わせた形態及び学習者自らが形態を選ぶ活動を考案した。
- ③ 過程の「終わり」では、音読体験の価値の確認として、「作品の理解が深まったか」、「声に変化が生まれたか」、「音読は楽しかったか」の振り返りを行う時間を設けることを推奨した。

今後、図形詩的表現の音読指導の形態とその過程の学習効果を明らかにしていく為には、営利を目的としない教育現場などで実践的な活動を行い、それぞれの妥当性を検証していく必要がある。

謝 辞

本研究に際して、色々な意見とご協力をいただいた高橋書店の丸山瑛野さんに心より御礼申し上げます。

参考文献

- [1] 藤野良孝(2022)「心と脳がぐんぐん育つ！わくわくおんどく」高橋書店、東京
- [2] 加藤俊徳(監)(2021)「頭がよくなる！寝るまえ1分おんどく366日」西東社、東京
- [3] 川島隆太(2002)「朝刊10分の音読で「脳力」が育つ—脳科学の最先端研究が明かす驚異の事実」PHPエディターズグループ、東京
- [4] 川島隆太(2004)「決定版！大人から子どもまで「脳力」を鍛える音読練習帳」宝島社、東京

- [5] 川島隆太・安達忠夫(2004)「脳と音読」(講談社現代新書)講談社, 東京
- [6] 川島隆太・川島英子(2015)「頭のいい子」は音読と計算で育つ(二見レインボー文庫)二見書房, 東京
- [7] コトバンク(世界大百科事典 第2版「カリグラム」, ブリタニカ国際大百科事典 小項目事典「カリグラム」)<https://kotobank.jp/word/カリグラム-47402>(参照日 2023年3月28日)
- [8] 草野心平(1981)「草野心平詩集」現代詩文庫, 思潮社, 東京
- [9] 文部科学省 CLARINET へようこそ. 補習授業校教師のためのワンポイントアドバイス集 > 7 音読・朗読 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/002/003/002/007.htm (参照日 2023年3月28日)
- [10] 小学館・デジタル大辞泉
<https://dictionary.goo.ne.jp/word/音読/>(参照日 2023年3月28日)
- [11] 小学校学習指導要領解説国語編(2017)
https://www.mext.go.jp/component/a_menu/education/micro_detail/_icsFiles/afieldfile/2019/03/18/1387017_002.pdf(参照日 2023年3月28日)

藤野 良孝(保健医療学部健康スポーツ科学科教授)